

## 船舶事故調査報告書

平成29年2月23日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	平成28年10月23日 14時30分ごろ
発生場所	宮城県気仙沼市長崎漁港 陸前長崎港長崎防波堤灯台から真方位222°400m付近 (概位 北緯38°51.0′ 東経141°37.4′)
事故の概要	漁船 <sup>なかやしき</sup> 中屋敷丸は、航行中、転覆した。
事故調査の経過	平成28年10月26日、主管調査官（仙台事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 中屋敷丸、0.2トン
船舶番号、船舶所有者等	MG3-43210（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	船外機上部カバーが欠損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西北西、風力 2、視界 良好 海象：うねり 波向北東、波高約2～3m、周期約12～14秒、水温 約19℃
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、翌日の刺し網漁場を選定する目的で、微速で航行していたところ、船長が右舷後方に高波を認め、2つの波をやり過ぎたものの、3つ目の高波をやり過ぎることができず、船尾側から高波を受け、海水が船内に流入して転覆した。</p> <p>船長は、海上に投げ出されたが、自力で海岸にたどり着き、陸上の目撃者は本船が転覆していることに気付いて地方の消防機関に通報を行った。</p> <p>本船は、僚船にえい航されて長崎漁港に着岸した。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していた。</p> <p>本船は、和船型で船外機を備えていた。</p> <p>本事故発生場所は、水深が約1m未満で、底質が砂である。</p>
分析	本船は、航行中、船尾側から波高約2～3mの波を受けたことから、海水が船内に流入して転覆したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、航行中、船尾側から波高約2～3mの波を受けたため、海水が船内に流入して転覆したものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水深が浅い海域では、沖からのうねりの波高が高くなるがあるので、波の状況に注意すること。</li> </ul>